



# 青森県弘前市が実施した『「やさしい日本語」を活用した 災害時外国人避難誘導訓練結果(概要)』について

令和2年2月21日

一般財団法人 自治体国際化協会

(一財)自治体国際化協会 多文化共生部

☎ : 03 - 5213 - 1725

E-mail : [tabunka@clair.or.jp](mailto:tabunka@clair.or.jp)

URL <http://www.clair.or.jp/j/multiculture/>

# 青森県弘前市における「弘前さくらまつりの外国人観光客を想定した避難誘導訓練(概要)」

- ◎ **開催日**：平成31年4月11日(木)
- ◎ **開催場所**：弘前公園（市民広場）、弘前市立観光館
- ◎ **参加団体等**：
  - 1 弘前市・さくらまつり関係団体等  
弘前市（防災課・観光課・公園緑地課・国際広域観光課）、弘前警察署、弘前市観光コンベンション協会、弘前市物産協会、弘前商工会議所、弘前市観光ボランティアガイドの会、弘前市みどりの協会、弘前市赤十字奉仕団、ベトナム人技能実習生（外国人観光客役28名）
  - 2 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室
  - 3 公益財団法人青森県国際交流協会
- ◎ **協力団体**：一般財団法人自治体国際化協会（クリア）

## 取組の概要

- ▶ 「弘前さくらまつり」の開催中に震度6弱の地震が発生した想定で、地震に不慣れな外国人観光客に対し、関係者が地震が発生したことを伝達するとともに、避難所である弘前市立観光館まで、簡単な単語とわかりやすい文章による「やさしい日本語」で避難誘導・支援することを目的に実施された。
- ▶ 訓練には、弘前大学佐藤和之教授（人文社会科学部社会言語学研究室）が監修する「やさしい日本語」での誘導方法を学んだ観光ボランティアガイドや市職員等が誘導役として、また、来日間もないベトナム人技能実習生が外国人観光客役として参加した。
- ▶ 避難所では、クリアがホームページ上で多言語提供している「避難者登録カード」のベトナム語版が活用された。氏名や国籍、体調、宗教上等の理由で摂取できない食品等の確認などをして、外国人避難者受け入れのシミュレーションを行った。

## 訓練の内容

### ① 避難誘導訓練

防災行政無線の音声や誘導員が持つボードの文字にも「大きな地震です。自分の体を守ってください」、「逃げる ところ」などの「やさしい日本語」が使われた。誘導員は、防災行政無線の指示に従いながら、「やさしい日本語」で外国人観光客を避難所まで誘導した。



「やさしい日本語」を使用した避難誘導の様子

### ② 避難者登録カードの活用

避難所では、ベトナム語版の「避難者登録カード」を外国人観光客に直接記入してもらうなど、外国人避難者受け入れのためのシミュレーションが行われた。



「避難者登録カード」  
(ベトナム語版)に記入

## 取組の成果

- ▶ 来日間もない日本語が堪能でないベトナム人技能実習生が外国人観光客役として実際に訓練に参加した。安全な施設への避難誘導が無事に行われたことで、災害時の「やさしい日本語」による情報伝達が、日本語に不慣れな外国人に有効であることを確認した。
- ▶ 誘導役の日本人関係者が、実際に日本語に不慣れな外国人の避難誘導を経験をしたことで「やさしい日本語」で外国人の避難誘導ができるという実感を得られたことが確認された。
- ➡ 以上のとおり、地震などの災害時における「やさしい日本語」の有効性が確認された。

# 青森県弘前市における「イベント時の外国人を想定した避難誘導訓練(概要)」

- ◎ **開催日**：令和元年9月27日(金)
- ◎ **開催場所**：弘前はるか夢球場
- ◎ **参加団体等**：
  - 1 弘前市・関係団体等  
弘前市（防災課・観光課・国際広域観光課・文化スポーツ課）、公益財団法人弘前市体育協会、弘前市防災マイスター（6名）（※1）、ベトナム人技能実習生（外国人客役44名）（※2）  
（※1）弘前市防災マイスター（市が養成する、防災に関する高い意識と知識を持った地域防災の推進者）  
（※2）外国人客（外国人住民・外国人観光客のいずれも含む）
  - 2 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室
  - 3 公益財団法人青森県国際交流協会
- ◎ **協力団体**：一般財団法人自治体国際化協会（クリア）

## 取組の概要

- ▶ 今回の訓練実施にあたり、本年4月に「やさしい日本語」で避難誘導・支援することを目的として実施した「弘前さくらまつりの外国人観光客を想定した避難誘導訓練」で得られた、以下の成果等を確認する。
  - 【成果】・「やさしい日本語」による災害時の情報伝達は、日本語の不慣れな外国人に対して有効と確認した
  - ・避難誘導役の日本人は、「やさしい日本語」による外国人への避難誘導が有効との実感を得た
- ▶ 「弘前はるか夢球場」でのイベント中に震度6強の地震が発生した想定で、地震に不慣れな外国人客に対し、施設管理者等が地震が発生したことを「やさしい日本語」を使って伝達・避難誘導することを目的に、弘前市総合防災訓練の一環として実施された。
- ▶ 具体的には、災害時に防災の拠点施設として避難所や物資備蓄の集積場所等としての利用が見込まれる「弘前はるか夢球場」で、弘前大学佐藤和之教授（人文社会科学部社会言語学研究室）が監修する「やさしい日本語」を使用したバックスクリーンへの文字表示・映像伝送、音声案内の放送訓練が行われた。
- ▶ 訓練には、弘前市防災マイスターや市職員等が誘導役、ベトナム人技能実習生が外国人客役として参加した。

# 青森県弘前市における「イベント時の外国人を想定した避難誘導訓練(概要)」

## 訓練の内容

- ① バックスクリーンへの文字表示・映像伝送訓練
- ② 案内音声の放送訓練

「やさしい日本語」を使用したバックスクリーンへの文字表示と案内音声の放送により、外国人客を観客席からグラウンド内へ避難誘導するシュミレーションが行われた。



「やさしい日本語」の表示と放送による避難誘導の様子

- ③ アンケート・講評

技能実習生へのアンケート（ベトナム語）では、自国での地震の被災経験や防災訓練参加経験の有無、日本滞在中の防災学習意欲などが確認された。



「やさしい日本語」案内ボード



観客席での誘導の様子

## 取組の成果

- ▶ ベトナム人技能実習生は、日本語の習熟度合により文字や音声を理解し、避難するまでの時間に個人差はあるものの、全員が正しくメッセージを理解し、観客席からグラウンド内へ避難することができた。
- ➡ 本年4月に実施した「弘前さくらまつりの外国人観光客を想定した避難誘導訓練」と今回の訓練を通じて、災害時において「やさしい日本語」による情報伝達や避難誘導が、日本語に不慣れな外国人に有効であることが確認できた。また、避難誘導役となった日本人にその有効性を実感してもらうことができた。